

インクルーシブの窓



令和8年2月 富山県教育委員会 教育みらい室 特別支援教育課

特別支援教育コーディネーターリーダーの真摯な取組を紹介します！その③



VOL.8 1、8 3に引き続き、昨年11月に行われた特別支援教育コーディネーターリーダー研修会に参加された先生方による今年度の取組の紹介です。

4月初めに、特別支援学級担任と交流級担任との確実な連携を呼びかけた。また、交流及び共同学習を担当する教員と積極的に情報交換し、悩みを聞き具体的な支援の仕方等について助言した。(小学校)

校内の4人のコーディネーターの役割分担を明確化したことで、多くの仕事に見通しをもって取り組むことができるようになった。(小学校)

学びの場の見直しにあたり、子供と保護者の教育的ニーズや不安な気持ちを受け止め、教職員で共通理解することに努めた。授業では、子供が達成感を味わえるような支援を行った。(小学校)

児童と教職員がお互いの理解を深められるよう、教職員同士の話しやすく相談しやすい雰囲気づくりに努めた。また、教職員が特別支援教育について理解を深められるよう、年間計画に基づいた校内研修を行った。(小学校)

発達障害のある生徒が、学校で過ごしやすく、自己肯定感を高められるにはどう支援したらよいかを考え、校内の関係者同士の連絡調整役をした。(中学校)

特別支援学級在籍の一人一人が身に付けた力を自分で考えて個人目標を掲げた校外学習を行い、一連の学習に取り組んだ。進路について共に考えることにもつながった。(中学校)

学びの場の変更や決定については全教職員での共通理解が重要と考え、4月当初に研修会を行った。また、教育支援委員会や臨時ケース会議の開催を通して、情報の共有に努めた。(小学校)

幼保小の連携によるスムーズな就学支援の充実を目指した。入学前から小学校に相談しようとする保護者の不安の軽減につながった。(小学校)

参加した研修会で学んだライフスキルの大切さについて、校内の全教員に報告・伝達したり、保護者の相談に生かしたりした。児童の自己肯定感を高めることにつながった。(小学校)

訪問相談のケース会議では、事前に相談依頼校の特別支援教育コーディネーターと、協議内容や進行、時間配分、参加者等について打ち合わせをしながら準備を進めた。当日の協議では、対話による合意形成が図られた。(特別支援学校)



特別支援学校は、地域の特別支援教育のセンター的役割を担っており、障害のある幼児児童生徒の指導等に関する相談や支援を行っています。

その際、お子さんのよりよい支援について先生方と一緒に考えるために、『子供のために先生が気づいて動けるチェックリスト』（富山県教育委員会）を活用することがあります。

富山県総合教育センターのホームページ（右の二次元コード）からダウンロードできます。電子版もあります。

